

資料1. 「I群：ヒューマンケアの基本的な能力、A-1」に必要な知識

実践能力		卒業時の到達目標	看護にとって必要な知識	レベル(1~3)	必要な知識の内容												学びの内容			
I群 ヒューマンケアの基本的な能力	A 対象の理解	1 人体の構造と機能について理解する	日常生活行動が可能となる人体の構造と機能	1													発達段階別	別科目として		
			呼吸する		肺の構造	肺の機能	気道（鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支）の構造	気道（鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支）の機能	心血管系の構造と機能	ガス交換	組織呼吸	呼吸中枢	体位と呼吸							
			食べる		消化器（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、肝臓、胆道、膵臓、大腸、肛門）の構造	消化器（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、肝臓、胆道、膵臓、大腸、肛門）の機能	摂食・嚥下のメカニズム	消化・吸収のメカニズム	栄養素	食欲中枢	味覚・嗅覚									
			排泄する		消化器（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、肝臓、胆道、膵臓、大腸、肛門）の構造	消化器（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、肝臓、胆道、膵臓、大腸、肛門）の機能	泌尿器（腎臓、膀胱、尿路）の構造	泌尿器（腎臓、膀胱、尿路）の機能	尿の性状・成分	便の性状・成分	排尿のメカニズム	排便のメカニズム	姿勢による排泄への影響	食習慣による排泄への影響	消化吸収と栄養素					
			眠る		中枢神経の構造	意識と睡眠のメカニズム	睡眠周期とレベル	神経伝達物質	環境の影響	睡眠中の生理機能の変化（体温、内分泌系）	ホルモンバランスと睡眠	体内時計と睡眠	ホメオスタシス	生活リズム	休息					
			移動する		骨・筋系の構造	骨・筋系の機能	神経細胞・神経組織	中枢神経系	末梢神経系	関節の構造	関節の機能	ボディメカニクス	運動の効果	活動耐性に影響する因子	生活姿勢と抗重力メカニズム	活動と休息のバランス				
			生産的な活動をする		心臓の構造	心臓の機能	血管系の構造	血管系の機能	リンパ系の構造	リンパ系の機能	視覚	聴覚	平衡覚	内臓感覚	エネルギー代謝	生活動作負荷と血圧、脈拍の変動				
			ホルモンの種類、ホルモンの分泌の調整、内分泌機関の構造とホルモンの種類																	
			血液免疫系の構造		血液免疫系の機能	皮膚の構造	皮膚・粘膜の機能	感染	非特異的生体防御反応	アレルギー	ボディイメージ	皮膚感覚閾値								
			こころの構造と機能（働き）：精神分析、精神力動理論		脳の基本構造と仕組み、働き	精神の機能	神経細胞と神経伝達の仕組み													
女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	性周期	生殖機能のメカニズム	性反応	妊娠の成立	妊娠の生理	母体の生理的变化	胎児の発育と健康状態	分娩の要素	分娩の経過	女性生殖器の機能										
女性の外性器	女性の内性器	遺伝	生殖系	男性生殖器	染色体・遺伝子	新生児の定義	新生児の機能	産褥期の身体的変化												
国家試験出題基準【人体の構造と機能】に充足されない項目（中項目レベル）			細胞・組織・器官（上記のそれぞれの構造・機能に含まれる）																	

資料2. 「II群：根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力、E～H」に必要な知識

実践能力	卒業時の到達目標	看護にとって必要な知識	レベル(1~3)	必要な知識の内容														学びの内容					
E アセスメント	16 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集する	健康の概念	1~2	健康とは	健康レベル	健康を阻害する因子																	
		目的を持った情報収集の視点	1~2	情報とは	看護理論(看護、生活、健康、環境、人間等の捉え方や価値観、期待)	主観的情報(自覚症状、感情表現、対象の考え方や価値観、期待)	客観的情報	日常生活自立度	国際生活機能分類(ICF)	ADL/IADL	QOL	ヘルスヒストリー	アセスメントガイド	診断基準									
		目的を持った情報収集	1~2	情報収集とは	面接技法(問診)	感覚器を通じた観察	身体診察(視診・聴診・触診・打診)	情報収集の方法(頭尾法、身体系統別、患者ニード)	医療器具の扱い方	コミュニケーション	情報源(重要関係者、ヘルスクエアチーム、診療録)												
	17 情報を整理し、分析・解釈・統合し、課題を抽出する	情報の整理分析・解釈	1~2	情報の活用	情報の倫理的な取扱い方法	情報の吟味	情報分析	情報の解釈	リフレクション	意思決定	批判的思考	分析的思考	論理的思考										
		呼吸することのアセスメント		食べることのアセスメント	排泄することのアセスメント	眠ることのアセスメント	移動することのアセスメント	生産的な活動を行うことのアセスメント	身体を清潔に保つことのアセスメント	意志や感情を表現する/信念を守る/人と関わることのアセスメント	次世代を育成することのアセスメント												
		分析・解釈の統合	1~2	問題解決の過程	全人的解釈	情報同志の関連性	部分と全体的な見方	全体論的な見方	関連図														
		看護問題の明確化優先順位の決定目標の設定	1~2	優先順位の付け方	看護上の問題の明確化	看護目標の立て方	目標の共有	短期目標	長期目標	看護目標の種類	目標達成志向												
	F 計画	18 対象者及びチームメンバーと協力しながら実施可能な看護計画を立案する	1~2	看護計画	行動計画(5W1H)	問題解決力	観察項目	ケア項目	教育項目														
看護チームアプローチ		チームカンファレンス		情報の開示と患者参加の促進	チーム形成論	チーム医療の重要性	協働的パートナーシップ	エンパワーメント	クリニカルパス	コミュニケーション	医療チームの構成職種と専門性	医療チームにおける看護の役割											
	19 根拠に基づいた個別化看護を計画する	1~2	EBN	具体的な看護活動の立案方法	個別性	ケアマネジメント	文献の検索方法	看護理論、看護研究、看護実践の関係	研究成果の解釈と活用														
G 実施	20 計画した看護を対象者の反応を捉えながら実施する	1~2	看護技術/看護方法/看護実践	実践過程	技術(対人関係、コミュニケーション)	相互作用	応答性	ケアリング	実践におけるリフレクション	フィードバック(セルフレギュレーション)	実践のアート	観察力	予測力	洞察力									
			看護のコアとなる安全・安楽・自立に留意し実施する	1~2	看護技術/看護方法/看護実践	安全	安楽	自立	感染予防	リスクマネジメント	医療安全対策	ケアマネジメント	看護管理	場の理論	セルフケア	看護倫理							
	22 看護援助技術を対象者の状態に合わせて適切に実施する	1~2	呼吸を助ける	経皮的動脈血酸素飽和度	酸素療法	ネプライザーの使用	口腔内・鼻腔内吸引	気管内吸引	呼吸を楽にする姿勢・呼吸法	体位ドレナージ	リラクゼーションの方法	呼吸訓練											
			食べることを助ける	3	人工呼吸器装着中の患者の観察点	低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点																	
				1~2	食事介助	食事の環境	誤嚥の予防	食欲を高める方法	義歯	自助具	水分摂取の援助方法	食事の形態											
		排泄を助ける	3	疾患に応じた食事内容の指導	個別性を反映した食生活の改善の計画	食事の種類(特別食)	経管栄養法	経静脈栄養法															
			1~2	自然な排便を促すための方法	自然な排便を促すための方法(温電法・指圧・マッサージ)	患者に合わせた便器・尿器の選択	便器・尿器を用いた排泄の援助方法	ポータブルトイレでの排泄の援助方法	おむつ交換	洗腸	摘便	膀胱留置カテーテルの挿入と管理	一時的導尿	自己導尿									
		3	失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護	ストーマ造設患者のケア	ドレーンの管理																		
	23 予測しない状況の変化について指導者又はスタッフに報告する	1~2	眠ることを助ける	入眠・睡眠を意識した日中の活動の方法	安静保持の援助	体動制限による苦痛の緩和	安楽な姿勢、体位の保持	安楽を促進するための方法	精神的安楽を保つための方法	入眠を促す方法	病室の環境条件	病床環境の調整	ベッドメイキング	リネン交換									
			移動を助ける	1~2	ボディメカニクスの原理	体位の種類と身体への影響	歩行・移動の介入方法	歩行補助具の選択	臥床患者の体位変換	移乗・移送	廃用性症候群予防のための自動・他動運動	関節可動域訓練	転倒防止										
			1~2	入浴が生体に及ぼす影響	入浴・シャワー浴	清拭	洗髪	部分浴(足浴・手浴)	陰部洗浄	口腔ケア	整容	病衣の選択	寝衣交換	沐浴	爪切り	特殊浴							
		1~2	生産的な活動を助ける看護技術	温電法・冷電法	体温調節の援助方法	末梢循環を促進するための部分浴・マッサージ	自立・自律支援	社会的役割	社会参加														
		1~2	意思や感情を表現する/信念を守る/人と関わることを助ける看護技術	コミュニケーション	人間関係	情動と身体反応	看護師の倫理綱領	看護実践と倫理	患者の権利	自己決定権	意思決定への支援	ケアリング	グループダイナミクス										
		24 実施した看護と対象者の反応を記録する	1~2	看護記録と法的意義	記録の意味	看護記録の法的意義	責任	個人情報保護法															
	看護記録の活用と具体的方法			1~2	記録の活用	看護記録	記録方法	記録の形式															
	H 評価	25 予測した成果と照らし合わせて実施した看護の結果を評価する	1~2	看護における評価と その方法	評価時期、評価方法	アウトカム(行動、生理学的データ)	目標評価	看護評価															
				26 評価に基づいて計画の修正をする	1~2	フィードバック	計画修正																

発達段階別
+
生活の場

発達段階別
+
生活の場

発達段階別
+
生活の場

